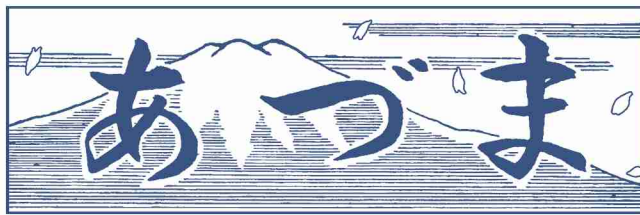


方面	能登半島地震に係る災害派遣(1面)
1師団	能登半島地震に係る災害派遣(3面)
12旅団	相次ぐ災害に即応(4面)
1施設団	団戦技競技会(5面)
関東補処	能登半島地震に係る災害派遣(5面)



令和6年2月 第1069号

総監統率方針「強靱な東部方面隊の創造」
総監要望事項「万事作戦を基準」

陸上自衛隊東部方面隊広報誌
発行所: 方面総監部広報室
住所: 東京都練馬区大泉学園町
専用線: 8-37-2446

令和6年能登半島地震

JTFに編成され生活支援

能登半島各地で活動



給水支援を実施する12後支



被災者に笑顔で対応する東方後支隊の隊員



給水支援を行う1高射大の隊員



給水の準備をする1後支連の隊員



輸送隊の大型トラックに部品を積み込む関東処



PFI支援での被災者との集合写真

1月1日午後4時10分、石川県能登地方を震源とする最大震度7の地震が発生し、能登地方において家屋倒壊等により人的及び物的被害が発生した。発災に伴い、東方航空隊及び東方シ通群で

編成されたヘリコプター映像伝送が情報収集活動を行った。

統合幕僚監部は1月2日、災統合任務部隊(JTF)を編成し、方面隊は生活支援隊を差し出して1月5日から災害派遣

活動を実施した。

生活支援隊は東方後支隊を基幹として34普通連、1後支連、1高射大、12後支、東方シ通群、東方衛生隊及び東方会計隊が給水・入浴支援を行った。

付から増強幕僚をJTFに差し出した。さらに1月12日、PFI支援として1普通連、32普通連、34普通連、1通大、12後支、12高射、12通、12化防及び12旅団が活動した。

この他、関東補給処が災害派遣活動に必要な物品を払い出し、東方輸送隊が輸送を行った。

JTFは2月1日、編成を解組し、方面隊は生活支援隊(入浴支援)を除き、平素の態勢に移行した。

関連 3456面

優秀作品10点を表彰

方面隊 写真・動画コンテスト

方面隊は広報担当者の撮影技術を確保するとともに、隊員の意欲の増進を図り、撮影技術を向上させることを目的として、令和5年度東部方面隊写真・動画コンテストを実施した。

コンテストは東部管内に所在する全隊員を対象として、令和5年4月から11月の間に撮影された作品の応募により行われ「陸上自衛隊」を連想させる部隊・隊員をテーマに、写真の部では応募総数74作品の中から7作品が、また動画の部では8作品の中から3作品がそれぞれ選出された。

2月2日には総監部において表彰式が実施され、総監より受賞者に表彰状と副賞が授与された。

表彰式において総監は「作品は部外プロカメラマンが厳正な審査を経て選んだものである。胸を張ってほしい。今後あらゆる機会を捉えて、適切な情報を迅速に発信し、作戦基盤の醸成に寄与してほしい(要約)」と述べ、受賞者の功績を称えた。

なお写真受賞作品は東部方面隊公式ホームページ、広報センターで掲載され、動画受賞作品は東部方面隊公式YouTubeチャンネルにアップされている。

動画の部



最優秀賞「東部方面混成団」
東部方面混成団 森曹長



優秀賞「防人 - 最後の砦 -」
第32普通科連隊 竹井3曹



優秀賞「Defense of the Capital」
第1通信大隊 荻野3曹



動画の視聴はコチラから

写真の部



最優秀賞「降下!」
第34普通科連隊 廣瀬2曹



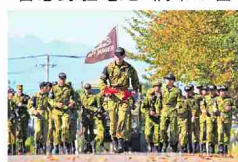
優秀賞「命がそこにある限り」
東部方面衛生隊 鈴木3曹



優秀賞「帰還」
習志野駐屯地 橋本3曹



特選「BACK TO NATURE」
第13普通科連隊 鈴木1曹



優秀賞「Run with the flag ~仲間と共に~」
第32普通科連隊 金井2曹



特選「一丸」
総監部付隊 水合曹長



特選「搭乗」
習志野駐屯地 下茂1曹

関係機関との連携強化図る 危機管理監等と情報・意見交換会

総監部は1月23日、朝霞駐屯地において地方公共団体危機管理担当者等との情報・意見交換会を実施した。

情報・意見交換会は午前中、国民保護に関する情報共有・意見交換が行われ、内閣官房から国の国民保護に関する取り組み、国土大学 中村准教授から国民保護に関する制度と措置、赤十字国際委員会（ICRC）榎澤駐日代表からウクライナ



ICRC 榎澤駐日代表からの発表



グループ討議の様子

ナ的活動経験等について発表があり、参加者からは「有事について考えるきっかけとなった」「普段接点のない関係者と連携のできる良い機会となった」などの所見があった。午後からは都県をまたぐ住民の避難・救助（受け入れ）をテーマとしてグループ討議を実施し、避難・救援における自治体、輸送・インフラ事業者等の実施事項の取り組みについて確認することができた。総監部は今後も、国民保護、災害対処等の実効性向上のため、関係機関と積極的に連携していく。

1年の無事を祈願 年始行事でだるまへ入瞳

総監部は1月10日、年始行事を実施した。行事においては慰霊碑に祭られている御霊に対して献花した後、だるまへの入瞳を行い今年1年の無事を祈願した。総監は「今年1年が輝かしい年となるよう各人の任務にまい進してもらいたい。私自身も『万事

作戦を基準」との認識の下、常に陣頭に立ち、諸官と共に今年1年隊務に取組み「強靱な東部方面隊の創造」への更なる前進を誓う」と訓示した。

防衛問題に対する理解増進 東桜会主催の防衛講話



講話を行う総監



講話を熱心に聴講する参加者

総監は1月19日、東京都内において東部方面隊東桜会が主催し、東部方面隊オビニオンリーダー会員も参加した防衛講話において、防衛問題に対する理解促進及び国民各層への波及効果を期待し、講話を実施した。総監による講話は「国際情勢」「東部方面隊の役割」「陸上自衛隊の更なる強靱化のための取り組み」「東部方面隊の取り組み」等をテーマに写真や動画等を使用して行われ、約70人の参加者は熱心に聴講されていた。



だるまへ入瞳する総監



慰霊碑に献花する総監

営舎用備品の改善 営内のモデルルームを設置



仕様変更した机と椅子



新たに設置予定のハンガーラック(手前)と仕様変更したロッカー(奥)



装備部長の説明を受ける総監



新たに設置予定の布団乾燥機(写真右)と除加湿器(写真左)

方面隊は1月19日、朝霞駐屯地において営舎用備品の改善に係るモデルルームを設置した。本施策は隊員の生活環境の更なる改善に寄与するため、これまで備付基準で定められていなかった湯沸かし器(ケトル)や除加湿器、布団乾燥機等に加え、補給処統制品目から部隊統制品目への需給統制区分の見直しに伴い仕様を変更する机や椅子、ロッカー等を調達・設置して検証している。1月24日にモデルルームを視察した総監は「大変素晴らしい施策である。今後、隊員の意見をよく確認して反映しつつ、進めて欲しい」と指導した。モデルルームは朝霞駐屯地D-2隊舎2階(朝霞駐屯地生活隊舎)に設置され、3月末まで東方隷下部隊の隊員等に展示・意見聴取して、今後の調達・整備に反映させていく予定である。モデルルームの見学を希望される方は、東方総監部装備部需品課にご連絡いただきたい。

第1師団

令和6年能登半島地震に係る災害派遣

被災者に寄り添った生活支援活動

師団は令和6年1月1日に発生した、石川県能登地方を震源とする最大震度7（M7.6）の令和6年能登半島地震で甚大な被害を受けた石川県珠洲市等に対する被災地救援のため、5日に第34普通科連隊、第1後方支援連隊及び第1高射特科大隊を入浴・給水支援のために派遣した。また12日にはPFI船舶を活用した被災者支援等のため第1普通科連隊、第32普通科連隊、第34普通科連隊及び第1通信大隊を石川県七尾港等に派遣し、被災者に寄り添った生活支援活動を実施した。

師団が活動する石川県珠洲市の状況は1月29日現在、建造物倒壊約500棟、停電約1400戸、断水約4800戸などのインフラ被害のため、約1600人の被災者が避難生活を継続している。道路が壊滅的に寸断され、山が海に迫る険しい地形と被災地の地理的特殊性や、1月厳冬期における降雪等の困難な状況の中、師団は5日より、34普連及び1高大が給水支援隊として市内50カ所の巡回給水支援を行い、1後支連は浄水活動と併せて医療・介護施設2箇所への給水活動及び各巡回給水班への給水活動をを行うとともに、入浴支援隊として、同市嶋島小学校において入浴支援活動を行っている。また防衛省がPFI方式で契約している民間船舶「はくおう」が七尾港に派遣された際、1普連、32普連、34普連及び1通大は、1月14日から28日までの間、船舶支援隊（PFI支援隊）を編成して活動した。船舶支援隊は被災者向けの宿泊や入浴のための一時休養施設の開設・運用について、石川県及び災害統合任務部隊司令部と緊密に連携・協力して行い、各避難所から船舶への輸送、乗船受付、船内の案内・誘導等を行った。インフラの復旧が進まない中、大浴場や食堂など船の設備を活用し、延べ宿泊者488人、施設一時利用者555人の被災者に対し支援を行い、そのリフレッシュに寄与した。師団は引き続き、関係省庁や自治体と緊密に連携し、被災者の方々に寄り添ったよりきめ細やかな入浴支援活動を継続する。

初のアーバンレンジャー隊員誕生

野戦の伝統を継承しつつ都市型にアップデート

過酷な訓練に臨み、全任務を完遂してそれぞれの駐屯地に無事帰還した。帰還式は学生家族、駐屯地所在部隊隊員等が見守る中で実施され、学生長が連隊長に帰還報告を行った。

その後、家族と久しぶりに再会した学生は、安堵の表情と笑みを浮かべた。家族の中には、無事に任務を完遂した、たく

第32普通科連隊は12月6日、第34普通科連隊は12月1日、それぞれ部隊集合教育「アーバンレンジャー」の最終想定訓練を終了し、帰還式を実施した。

学生は最終想定において、長距離に及ぶ山地機動・潜入、さらに市街地における各種作戦遂行等の



多くの隊員に見守られ帰還(34普連)

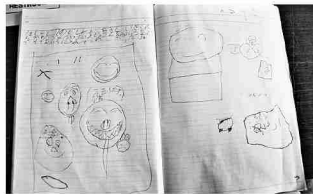


最愛の人に送るダイヤモンド(32普連)

まじい息子・夫の姿をみて涙を流す人もいた。帰還式において32普連小井戸3曹は彼女と久しぶりに再会し、涙する彼女の前にひざまずき婚約指輪を渡した。彼の胸には不撓不屈を表すダイヤモンドが、彼女の指には永遠の愛を表すダイヤモンドが輝いていた。



地域住民との交流



感謝の寄書(入浴支援)



珠洲市における雪が降る中での給水支援活動(給水支援)

Have a Looking Tours



防弾チョッキ・鉄帽を体験する

毎日が訓練公開日

師団は12月9日、20日及び21日に、陸上自衛隊広報センター及び朝霞訓練場至近距離射場において公募による訓練公開を実施した。

訓練公開では各日数コグループを編成し、広報センター及び至近距離射撃を各グループ交互に見学を実施した。

師団では自衛隊に対する無関心層を含め、多くの方に興味を持ってもらえるよう「毎日が訓練公開日」と宣言し、訓練見学に対応している。このため特別に見学・展示と準備した訓練公開ではなく、希望があればすぐに見学できるように各部隊が年度計画に基づき行っている訓練等を公開している。

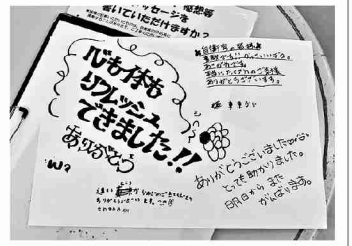
自衛官が本気で日本の防衛に向き合っている姿勢を、自衛官と接する機会が少ない方々にも公開し、自衛官と同じこととできないが自分のできる事で国に貢献しようと思ってもらえるきっかけ作りとなればと考えている。



子どもたちとの交流(PFI支援)



船舶への送迎(PFI支援)



感謝の寄書(PFI支援)



楽器それぞれの個性で奏でるハーモニー

第9回室内楽演奏会

少人数編成の重奏で観客を魅了

第1音楽隊は12月13日、光が丘IMAホール(練馬区)において、演奏者及び地域住民の自衛隊に対する親近感の醸成を目的に第9回室内楽演奏会を開催し、募集された小規模で行う演奏会のことを行い、本演奏会では10組による演奏が行われた。

シンプルな編成だからこそ際立つ楽器それぞれの音色や一人一人の奏でる美しい旋律に、観客は耳を傾けていた。



第1師団

検索

第12旅団

相次ぐ災害に即応 群馬・石川・和歌山へ派遣



鳥インフルエンザ対処に係る災害派遣(高山村)

旅団は令和6年のスタートとなる元日から、各種災害に即応し、一部は活動を実施中(1月下旬現在)である。

群馬県高山村にある養鶏場において12月31日、鳥インフルエンザの疑いが発生した。翌日の1月1日、検査の結果高病原性鳥インフルエンザ陽性が確定した。旅団は群馬県知事から鶏殺処分等の支援に係る災害派遣要請を、同日午前9時に受理した。

午後0時5分に活動を開始した。約260人の隊員が24時間態勢で活動を行い、養鶏場にいる約36万羽のうち、自衛隊に割り当てられた12万羽を担当した。支援は順調に進み、3日午前7時、県知事より撤収要請を受けて活動を終了した。

鳥インフルエンザ対処に係る災害派遣中の1月1日夕方に発生した能登半島地震では、12旅団区内の新潟県中越地方で震度6弱、長野県北部でも震度5弱を観測した。旅団隷下の各普通科連隊は速やかに非常勤務態勢に移行し、各担当隊区に地上偵察班等を派遣して情報収集活動を行った。

1月5日からは、令和6年能登半島地震に係る災害派遣部隊として編成された東部方面生活支援隊の一部として、第12後方支援隊から入浴及び給水支援班を派遣し、現在も石川県珠洲市で活動中である。

また1月29日までの間、PFI船舶(自衛隊の海上輸送力確保の一部を民間輸送力活用する事業)支援隊の輸送班として第12後方支援隊、第12高射特科隊、第12通信隊、第12偵察隊、第12化学防護隊及び第12旅団司令部付隊から要員を派遣し、石川県七尾港に停泊する船舶等において、被災者や被災地復興に当たる方々の支援に当たった。

さらに1月13日には、和歌山県すさみ町で発生した山林火災に係る中部方面隊の災害派遣を支援するため、第12ヘリコプター隊のCH-47JA2機と消火バケット取り付けのための要員(第12偵察隊、第12高射特科隊、第12通信隊及び第12化学防護隊)を派遣した。隊員らは同日午後11時に相馬原飛行場を離陸した。翌14日から空中消火活動を実施し、15日午前9時50分、同山林火災の鎮圧に伴い和歌山県知

事からの撤収要請を受け、中部方面隊の災害派遣活動の支援を終了して同日午後6時10分、相馬原飛行場に帰還した。旅団は引き続き、あらゆる任務に即応できるよう態勢を整えていく。



野外入浴を利用した被災者と支援隊員(珠洲市)



断水地域での給水支援(珠洲市)



PFI船舶支援で活動する輸送班(七尾市)



深夜和歌山県へ向け離陸するCH-47



展示説明を行う山下3曹(左から2人目)

旅団は12月16日から21日までの間、第2普通科連隊 宮澤2尉以下8人の隊員を、ラオス人民民主共和国で行われたラオス軍に対する能力構築支援(派遣事業支援)の教官要員として派遣した。

旅団として昨年度に引き続き4回目となる本派遣は、災害発生時における捜索・救助、衛生活動等に関する教育訓練を行い、ラオス軍の災害対処能力を向上させることを目的とし、ラオス共和国内で活動を行った。16日ラオス人民民主共和国ヒエンチャンに到着した隊員は、4日間の日程でそれぞれの専門分野

災害救助におけるノウハウを伝授 ラオス軍に対する能力構築支援

旅団は12月16日から21日までの間、第2普通科連隊 宮澤2尉以下8人の隊員を、ラオス人民民主共和国で行われたラオス軍に対する能力構築支援(派遣事業支援)の教官要員として派遣した。

旅団として昨年度に引き続き4回目となる本派遣は、災害発生時における捜索・救助、衛生活動等に関する教育訓練を行い、ラオス軍の災害対処能力を向上させることを目的とし、ラオス共和国内で活動を行った。16日ラオス人民民主共和国ヒエンチャンに到着した隊員は、4日間の日程でそれぞれの専門分野



着任挨拶を行う阿部副旅団長

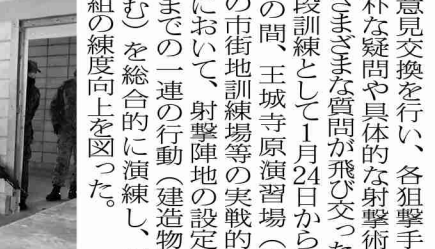
第16代副旅団長に 阿部1佐が着任

小春日和となった12月1日、第16代副旅団長兼相馬原駐屯地司令に、北部方面混成団から阿部洋一1佐が着任した。駐屯地に到着した阿部1佐は、駐屯地慰霊碑に献花をした後、司令部庁舎前において駐屯地部隊長らを出迎えを受けた。引き続き司令部内で、幹部挨拶、状況報告受け及び司令部庁舎巡視などを実施し、司令部の概要を把握した。なお12月1日付で前副旅団長吉浦1佐は、朝霞駐屯地業務隊長へご栄転された。

広大は射場で実戦的訓練 令和5年度方面狙撃集合同訓練



米海兵隊の展示・説明を受ける狙撃手



建造物内から射撃を行う狙撃手

旅団は1月6日から31日までの間、方面隊が実施する令和5年度方面狙撃集合同訓練を担当した。本訓練は第30普通科連隊が担任し、1師団と12旅団各普通科連隊の狙撃手が参加した。前段訓練として1月10日から11日にかけて、米軍中部訓練場(沖繩県)において射距離判定射撃や長射程での射撃訓練を行った。この間、米海兵隊狙撃小隊との意見交換を行い、各狙撃手からは素朴な疑問や具体的な射撃術に関するさまざまな質問が飛び交った。後段訓練として1月24日から28日までの間、王城寺原演習場(宮城県)の市街地訓練場等の実戦的な環境下において、射撃陣地の設定から射撃までの一連の行動(建造物掃討を含む)を総合的に演練し、狙撃手・組の練度向上を図った。

第1施設団

令和5年度団戦技競技会

戦技は平時における実戦の場

施設団は5年12月12日・13日の両日、古河駐屯地において令和5年度団戦技競技会(持続走及び銃剣道)を実施した。12日は持続走(駅伝の部)が行われ15キロメートル5区間(1区間3キロメートル)で競った。参加者は号砲の合図に一斉に飛び出し、素晴らしい走りを見せた。13日の銃剣道では、個人戦及び団体戦で実施した。団体戦においては、各部隊の代表選手が、部隊の名誉をかけ、気迫溢れる試合を展開し、熱戦を繰り広げた。

2日間にわたる団戦技競技会に参加した選手たちは、応援と一体となり、日頃の練成成果を十分に発揮することができた。

の強化及び士気の高揚をさらに向上させることができた。

フォロー募集中



【X】



白熱したレース後の胸上げ



3組同時の襷バトンタッチ



試合の前に気を入れた円陣(銃剣道)



選手宣誓する第307施設隊 土井3曹



部隊対抗優勝(持続走)



部隊の名誉をかけた試合



抱負を表明した二十歳の隊員による敬礼



記念撮影の様子



二十歳の隊員代表の第1施設団本部付隊 渡邊士長



古河市長による記念品の贈呈

二十歳の隊員集う 決意を新たに抱負表明

古河駐屯地は1月15日「令和5年度古河駐屯地成人行事」を挙行政。今年度、晴れて二十歳となった13人のうち、訓練等により参加できなかった隊員を除く11人が式典に参加した。古河市長の祝辞をいただき、多くの来賓の方や、駐屯地各部隊長が参列して執り行われた式典の冒頭で新

成人たちは朝礼台の上から二十歳としての決意の言葉を自衛官らしく力強く述べた。記念会食では第1施設団本部付隊 渡邊士長が代表し、式を催した駐屯地司令をはじめ、来賓の方や家族に対して感謝と決意の言葉を述べた。今後の二十歳の隊員の活躍に期待する。

【部隊対抗の部(施設隊)】第307施設隊

【個人の部】

1区間	4施群	士長 建部在
2区間	4施群	2曹 望月優
3区間	4施群	3曹 高橋壮太
4区間	4施群	3曹 上川内伸晃
5区間	4施群	1曹 津山智久
女性自衛官	4施群	1曹 白石智雅

【部隊対抗の部(施設隊)】第101施設隊

【個人の部】

幹部の部	4施群	3尉 門倉基
陸曹の部	101施器	2曹 田上孝也
陸士の部	5施群	士長 小川玲央
女性自衛官	101施器	2曹 青木友香
新配置隊員	5施群	1士 田川裕都



目入れを行う処長

目入れ式で任務達成祈願

処長以下部長等が抱負表明

処長、副処長、各部長等は1月10日、霞ヶ浦駐屯地において祈願だるまの目入れ式を行った。副処長以下部長等は新年の抱負をそれぞれ表明した。書き入れを実施した。最後に処長が「全隊員の健康と安全を祈念する」と述べて書き入れを行い、だるまの片目を開眼させた。令和6年も処員一丸となり、引き続き任務にまい進していく。



タイヤ積載作業中の火器車両部隊員



日用品セット交付作業中の松戸支処隊員



指揮所で状況確認する処長(右)



日用品セットA 10 ST

関東処は1月16日10分ごろに発生した石川県能登半島を震源とする最大震度7の地震に伴い、部隊に対する各種補給品交付等任務に邁進中である。処は発災後、災害第3種非常勤勤務態勢に移行して速やかに指揮所を開設し、情報収集を

行いつつ、支援態勢を整えた。1月4日以降、火器車両部、通信電子部、航空部、松戸支処、古河支処及び用賀支処は陸災部隊等に対し、それぞれが所在する駐屯地において併せて約240品目15万点以上の部品等交付を実施(1月現在)しており、

部隊活動基盤の構築及び装備品可動率の維持等に寄与している。



答辞する二十歳隊員

式典後は二十歳隊員及び家族、来賓及び駐屯地司令以下隊員所属部隊長等で記念会食を行った。二十歳隊員の公私にわたる今後の活躍を期待する。



抱負を発表する二十歳隊員

駐屯地司令は式辞で「諸君らの記念すべき門出に当たり、2つのことを述べる。『常に前向きに、挑戦する気持ちを忘れるな』『常に感謝の心を忘れるな』、一日一日を大切に過ごし、社会人として、自衛隊員として立派に成長し続けることを強く祈念する(要旨)と述べ二十歳隊員を激励した。また二十歳隊員を代表して、第103補給大隊 戸田3曹が力強く答辞した。

二十歳隊員 決意新たに 駐屯地をあげて門出祝う

駐屯地司令は式辞で「諸君らの記念すべき門出に当たり、2つのことを述べる。『常に前向きに、挑戦する気持ちを忘れるな』『常に感謝の心を忘れるな』、一日一日を大切に過ごし、社会人として、自衛隊員として立派に成長し続けることを強く祈念する(要旨)と述べ二十歳隊員を激励した。また二十歳隊員を代表して、第103補給大隊 戸田3曹が力強く答辞した。

霞ヶ浦駐屯地は1月19日「二十歳の集い」を挙行し、節目を迎える隊員の門出を祝した。

当日は19人の二十歳隊員が式に臨み、二十歳隊員家族26人が来隊するとともに、土浦市長、後援会会長、協力会会長、茨城県家族会会長等多数の来賓にご臨席いただいた。

二十歳隊員は多数の来賓等に見守られながら、一人一人壇上に立ち「社会人として立派に務めを果たします」「幹部を目指して頑張っていけます」等、今後の抱負を発表した。

陸上自衛隊霞ヶ浦駐屯地公式
Camp Kasumigaura

後支隊

多様な任務に即応 令和6年能登半島地震



給水支援を行う隊員



入浴施設での記念撮影

東部方面後方支援隊は1月5日から令和6年能登半島地震に係る災害派遣活動に従事している。総監の命を受けた後支隊は1月5日、後支隊副隊長を長とした東方生活支援隊の基幹部隊を編成し、高田駐屯地に集結した。第1師団、第12旅団

及び方面直轄部隊の配属を受けて1月6日、活動拠点となる石川県能登町内浦総合運動公園へ前進し、現地偵察及び自治体との調整を開始した。生活支援隊は1月8日、七尾特別支援小学校を拠点として、珠洲市内約60カ所の給水点を巡回給水する給水支援を開始した。また入浴支援は、同日から珠洲市立宝立小中学

校及び飯田小学校に、1月14日から蛸島小学校にそれぞれ野外入浴セットによる入浴施設を開設し、被災地における入浴支援を開始した。現地では震度5前後の余震が頻発し、雪や強風など悪天候が続く中、日々約300人の入浴支援及び約15トンの給水支援給水支援は2月1日をもって終了を実施している。

さらに輸送隊は、災統合任務部隊の活動に必要な補給品等追送のニーズに即応し、輸送支援を実施している。被災地ではライフラインが停止し、多くの被災者が不自由な生活を強いられている中、生活支援隊は、隊員一人一人が被災者に寄り添い、ニーズに応えるべく任務にまい進している。

CTS 部隊の練度向上に最大限寄与 旅団の指揮所訓練を支援

東部方面指揮所訓練支援隊は1月13日から19日までの間、第12旅団が実施した令和5年度旅団指揮所訓練センター訓練を支援した。本訓練は指揮所訓練統

裁支援サービスを用いて指揮所訓練を実施し、旅団司令部及び隷下部隊の指揮幕僚活動能力の向上を図ることを目的とし、指揮及び幕僚活動「旅団の戦い方の確立」を主要

演練項目として「有機的指揮幕僚活動」及び「戦いの創造」の統裁官要望事項のもと、旅団主力と第30普通科連隊基幹の自由統裁方式で実施された。隊は本訓練の支援に当

たり、旅団司令部等と訓練実施要領等について綿密な調整を実施するとともに、新型コロナウイルス及びインフルエンザ感染症防止対策として、室内の常時換気及び消毒等の徹底を図りつつ訓練支援を実施した。

訓練間においては、統裁部・訓練部隊と密接に連携し、指揮所訓練統裁支援サービスの操作実習、入力統制及び研究会資料の収集・提供等を実施し、訓練部隊の指揮幕僚活動に係る能力の向上に寄与した。

隊は引き続き、訓練部隊のニーズに最大限にこたえつつ訓練支援の質的向上を図り、強靱な東部方面隊の創造に最大限寄与する。



訓練部隊の質問対応をする隊員



操作要領を説明する隊員

混成団

教育要員の能力向上 女教隊が隊集中訓練

女性自衛官教育隊は1月15日から26日までの間、朝霞駐屯地及び東富士演習場において隊集中訓練を実施した。



集中して訓練に臨む隊員

本訓練は教育要員の練度及び指導能力を向上させることにも、隊としての教育要領を確立することを目的として、前段朝霞駐屯地、後段（東富士演習場）に区分して実施した。教育隊として質の高い教育のためには教育要員の能力向上が不可欠との認識があり、昨年度までの教育サイクルを抜本的に見直し教育要員の練成期間を捻出した。

前段訓練においては小銃小隊の陣地攻撃、演習對抗部隊の防御等について教育要領の認識を統一・再徹底するとともに、富士学校普通科部が研究中の戦闘教練（仮称）に取り組み、戦場における事象への小部隊の対応行動を繰り返し演習した。

後段訓練においては、演習場の地形・地物を活用し、陣地攻撃における偵察、命令下達、戦闘指導・予行、攻撃等の各場面をとりあて、小部隊指揮官としての指揮手順を演練するとともに、簡易パトラを使用し対抗方式とすることで、より実践的・効果的な訓練が実現した。

今後も女性自衛官教育隊は「すべては学生のために」を合言葉に、国民の負託にこたえる陸上自衛官を育成するため、隊一丸となって、教育専門部隊としての任務を遂行していく。

立川駐屯地

二十歳 書初めで決意表明 年頭に飛躍と向上を誓う



書初めで決意表明する小山士長

立川駐屯地は1月11日、駐屯地朝礼において「二十歳の誓い」を行った。令和5年度二十歳を迎えた12人（入校等のため2人不在）は駐屯地隊員が見守るなか、書初めで書いた抱負を一人ずつ発表し、今後の「飛躍と向上」を力強く誓った。

東部方面ヘリコプター隊の小山士長は「日替人間」という書初めを掲げ「替わるという文字は、今あるものを新しいものに替える意味があります。司令は新成人に対し「それぞれが、自分の決意を実行できるよう精進してください。これからの活躍を期待します」と訓示した。新成人は社会人及び自衛官としての自覚を振作するとともに、決意を新たに



司令と書初めを手にする新成人

神奈川県

自衛隊の魅力伝える 小・中学校で職業講話

自衛隊神奈川県地方協力本部上大岡募集案内所は1月26日、横浜市立根岸小学校(横浜市磯子区)において、6年生の児童70人に対して職業講話を実施した。

講話前に校長先生に「本日は自衛隊の災害派遣を中心にお話しします」と話したところ「6年生が実施したフードドライブ...」

講話では自衛隊の災害派遣のDVDを視聴した後、自己完結組織である自衛隊のさまざまな職種・職域を災害派遣時の各種活動と関連付けて紹介した。日ごろ目にするこ...

職業講話では職業選択の重要性や学習への取り組み方、人とのつながりや絆の大切さなどについて考えるきっかけになるよう工夫して講話を実施したことで、生徒たちは終始真剣なまなざしで熱心にメモを取ったりしながら、自衛隊の厳しい訓練や幅広い職域に驚いていました。

令和5年3月に新編した東部方面特科連隊第2大隊第5中隊に所属している町田3尉で、

東部方面特科連隊第2大隊第3等陸尉 町田 翔

前進観測班長として、

ともに前進観測班長として受領しました。



生徒に講話する上岡募集案内所所長

静岡県

南海トラフを見据えた取り組み 県立高校を震災時の活動拠点に

自衛隊静岡県地方協力本部は12月20日、静岡県庁において第34普通科連隊とともに教育委員会と危機対策課に対し、自衛隊による防災教育実施に関する趣旨説明と震災時の活動拠点の増加提案及び文書手交を行った。

本行事は南海トラフ地震を見据え、高校生への防災教育の実施及び震災時の活動拠点として県立高校の活用を目指すため、現地での調査・展開訓練を県へ提案するものであり、自衛隊からは本部長、34普通科連隊長

が、県からは教育委員会池上教育長、水口教育部長、危機対策課 梶恒危機調整官が出席した。

行事は当初、本部長より地本が県内の学校で実施している防災教育の様子や内容を紹介し、特に高校生に対する防災意識高揚の大切さを伝えた。

その後、副連隊長が発災時の初動における活動拠点として施設や設備条件などから県立高校が最適であること、東日本大震災や自身が従事した災害派遣活動での経験からその有用性を説明した。

また現在拠点に指定されている場所を含めた現地での調査や展開訓練が、県と自衛隊の連携や部隊の動きを円滑にするために重要であることを訴え、県の協力を依頼した。

自衛隊静岡県地方協力本部は12月20日、静岡県庁において第34普通科連隊とともに教育委員会と危機対策課に対し、自衛隊による防災教育実施に関する趣旨説明と震災時の活動拠点の増加提案及び文書手交を行った。

ある！ある！自衛隊



文書手交を行う本部長

自衛隊神奈川県地方協力本部は11月18・19日の両日「熱血！高校生販売甲子園」に参加した。



自衛隊体操を踊る大学生と隊員

群馬地本は本イベントに合わせ8月ごろから大学生と打ち合わせを行い、自衛隊体操を指導する等自衛官と大学生が交流する良い機会となった。イベント当日のステージでは、



ペットと一緒に楽しむ来場者

大田原地域事務所は那須ハイランドパークの厚いご協力により、若者の集まる場所での「攻めの広報」を行うことができ、今後も募集広報の強化を図っていく。

群馬地本

自衛隊体操を踊る 大学生と交流し募集活動

自衛隊群馬地方協力本部は11月18・19日の両日「熱血！高校生販売甲子園」に参加した。

群馬地本はこの交流をきっかけに次年度の幹部候補生、予備自衛官補の対象者情報を獲得できた。

※「自衛隊体操を踊る」は群馬地本YouTubeにて配信中

YouTubeはコチラから

依頼文を受け取った。静岡県は今後も、県民の防災意識の高揚を図るべく、部隊と協力して非常時の態勢強化に努めていく。

実行委員会の大学生と同大学の予備自衛官補1人、幹部候補生採用予定者1人とともに真剣に自衛隊体操に取り組み、その後、来場者が楽しめるよう、新しい学校のリーダーズ「大人ブルー」の曲に合わせた自衛隊体操をアレンジして踊った。

自衛隊栃木地方協力本部大田原地域事務所は12月17日、那須ハイランドパークにおいて、東部方面特科連隊第2大隊の支援を受け、広報展を実施した。

当日は那須ハイランドパークの中央広場に小型トラック、大型トラック、宿営用天幕の展示、募集易ベッドも狭くて...寒さの中で、天幕で生活するのは大変ですね。いつも大変な訓練お疲れ様です」と、ねぎらいの言葉をかけてくれた。さらにペット連れの来場者の中に、装備品とともに記念撮影する姿が見られ、ほのぼのとした雰囲気の中で広報展を行った。

大田原地域事務所は那須ハイランドパークの厚いご協力により、若者の集まる場所での「攻めの広報」を行うことができ、今後も募集広報の強化を図っていく。

速度に大きな影響を及ぼすと言っても過言ではありません。大隊の全努力が傾注された弾先を修正する重責はありましたが、今までの練成成果を發揮し、任務遂行することができました。

これら2つの検閲を通して、野戦特科の初級幹部として1歩前進することができたと考えます。今回の検閲で学んだことを糧に、引き続き部隊に貢献できるようにまい進していきます。

最前任 上級曹長

「伝統の継承」 第12ヘリコプター隊 野田 尚吾 准陸尉



令和5年12月22日付で第12ヘリコプター隊第5代最前任上級曹長に上番しました野田准尉です。

12ヘリ隊は空中機動能力を強化した第12旅団における骨幹部隊であり、かつ東部方面隊隷下部隊においてUH・60、CH・47を保有する唯一の部隊です。あらゆる任務

(空中機動、人命救助、物資空輸、空中消火、航空偵察等)に対応するための高い即応能力が求められます。併せて相馬原駐屯地(CH・47)と北宇都宮駐屯地(UH・60)の2箇所に分散した部隊配置であることも特性の一つとなります。

航空科部隊最大の特性

である航空機を運用する上での5つの特技(操縦、整備、管制、気象、通信)は、非常に専門性が高く、しかもその知識、技術及び経験値を養うためには長い年月を必要とするため、後継者の育成(人材育成)が極めて重要であり、かつ航空安全の確保のために必要な要素となります。併せて他職種部隊と円滑に連携するためには、逐次更新した知識・技術・経験を保持すること、そして平素からの交流が重要です。

以上のような特性を持つヘリ隊の最前任上級曹長としての問題認識は、

現在全国的な問題である若年隊員の早期退職等の影響がヘリ隊においても同様に見られつつあり、後継者の育成、すなわち「伝統の継承」がやや不十分になっているのではないかと感じています。

そのため、ヘリ隊の最前任上級曹長としてなすべきことの中で、特に私に課せられた役割は「伝統を伝える隊員とそれを受け継ぐ隊員の育成」と考えます。

その際、着意することとしては、各隊の先任上級曹長と連携して「ハラスメントの根絶」、現場隊員一人一人の意見を傾聴し部隊を強くするための建設的な意見を引き出すこと等により「帰属意識を醸成」することが必要と考えます。

「疾風に勁草(けいそ)を知る」(意味：困難に直面した時に初めてその人間の本当の強さや価値がわかる)

自身がかつての上司からいただいた言葉をしっかりと継承し、ヘリ隊及び旅団の任務達成に寄与するため、ヘリ隊最前任上級曹長として「現場第一主義」を軸とし、困難な場面においても自己の職責を果たし得る使命感及び責任感を持った隊員を育成できるよう、全力で職責を全うしていきます。

予備自衛官

長野地方協力本部

藤森 政彦 予備1等陸曹



採用されている間は毎年欠かさず訓練出頭に並び、即応予備自衛官採用間に発生した東日本大震災の時は災害等招集にも応じておりました。

私は昨年度最後の任期更新をし、予備自衛官生活も残すところあと2年となりました。

そんな中で今年の5月26日から30日までの間、朝霞駐屯地で行われた令和5年度予備自衛官中央訓練に参加しました。

予備自衛官として二回くらは参加してみたいと考えており、前々から希望していたものの、参加枠や昨今のコロナの影響等、中々参加の機会を得ることができませんでした。今年ようやく出頭する運びとなりました。

いざ出頭すると参加者は

年齢層こそ幅が広がりましたが、各地本から選抜されただけあって、見識、意識が高い人が多く、私としては身が引き締まる思いで訓練に臨むことができました。

また通常の5日間の訓練では実施することが無い訓練や総合火力演習等研修の場も多く大変勉強になりました。

特に戦況現示装置を身体に装着した警備訓練は、普段出頭する駐屯地では実施することが無く、自分が相手から危害を受けることを想定したものであり、緊張感をもって訓練をすることができました。

私は現在、長野県下諏訪町に所在する株式会社井上興業という建設土木会社で主に土木作業員として勤務しております。

予備自衛官制度に対して本心に理解があり、会社が

「今日の後に今日なし」 第5施設群 櫻井 萌々子 陸士長

今月のフェアレディは、第5施設群第394施設中隊の櫻井 萌々子 陸士長です。櫻井士長は山形県出身で、学生時代は水泳、剣道、卓球及び合気道で元氣いっぱい汗を流して過ごしていました。

して憧れの気持ちを抱くとともに、人の役に立つ仕事がしたいと思い入隊しました。

Q2・普段行っている業務と魅力は何ですか？

渡河小隊に所属しており、81式自走架柱橋の架設訓練と渡河器材の整備をしています。専門的な施設器材であり、他の職

種ではできないことをやっていると魅力です。

Q3・思い出深い訓練は？

今年度受けた小隊訓練検閲です。駐屯地や演習場で段階的に、練度を向上させてきましたが、状況下での長期の訓練は初めてで、自分の限界まで心身を追い込むことで忍

耐力を身につけることができました。

Q4・ご自身のモットーと心掛けは？

私のモットーは「今日の後に今日なし」という言葉です。毎日の任務で心がけていることは、元気でいること、解らないことをわからないままにしないことです。陸士

として積極的に部隊の指揮下に入り任務遂行のためわからないことを無くし部隊に貢献するためです。

Q1・自衛隊に入隊したきっかけは？

学生の時にいった自衛隊音楽まつりの庄巻のパフォーマンスに心躍らされ、僕も同じステージに上がりたいと思い入隊しました。

Q2・自衛隊で一番印象に残っている出来事は？

4年11月に行われた自衛隊音楽まつりです。憧れであり入隊の動機にもなった音楽まつりに出演でき、遂に自分も音楽隊の一員になったという喜びを感じられたことも、学生の時に見ていたステージに立ち、演奏していることにとても感動

しました。

Q3・普段の業務とその魅力は何ですか？

普段は派遣演奏に向けて個人訓練や合奏訓練に取り組んでいます。また企画楽譜係として派遣先で使用する楽譜の整理・保管業務をしています。何百とある楽譜を作曲

者、編曲者、出版社、題名、ジャンルなどに分類し、全てデータ管理する作業を行っています。

Q4・趣味は？

総合格闘技のジムに行くことです。きっかけはUFC(米国の総合格闘技団体)のスター、コナー・マクレガー選手の伝記映画「ノートリアス」を観て火が付きまして。皆様もぜひ観てください。

Q5・最後に一言？

たくさん先輩から多くの指導をいただけること、私に成長のチャンスを与えてくださること、日々いろいろなことに感謝をしながら戦う！ユーフォニアム奏者として頑張っていきます！

編集後記

「初心を大切に」
「初心を忘れるべからず」とは、室町時代の能作者・役者の世阿弥の名言であり、能の修業を志した最初の純粋な心構えをいつまでも持ち続けることを説いている。

我々は、何か物事を始めるとき決心をして臨む。しかし順調にいけば、最初に決心したことをなかりに忘れてしまう。逆に順調にいかないときは、冷静さを失って、最初の決心を思い出すことができなくなってしまう。

初心の大切さを忘れないためには、その物事に慣れてきたときに初心を思い出し、引き締めること、自分が決めたことに対して真摯に取り組む、「何のために」実践していることなのか振り返ることが大切ではないかと思う。とは言っても、人間は忘れる生き物であるため、分かってはいるものの実践し続けることは難しい。私自身も、傲慢にならないように謙虚な心を保ち、初心を大切にすることを教わってきたが、実践し続けることはできていない。

あと少しで今年度も終わり、新しい年度を迎えようとしている。今一度、謙虚に自分を省みて、初心に立ち返りたいと思う。



今月の東方男児は、高では全国大会常連校の吹奏楽部で活動していたが、休日は格闘技ジムに通うほどの格闘好きの隠れた一面を持つ、第1音楽隊の戦う！ユーフォ



今月の東方男児は、高では全国大会常連校の吹奏楽部で活動していたが、休日は格闘技ジムに通うほどの格闘好きの隠れた一面を持つ、第1音楽隊の戦う！ユーフォ